

## 届いた「声」と届かなかった「声」

これまで朝日新聞「声」にどれだけ投書してきただろうか。大阪に転居してから2回投書して、掲載されたのが写真の2018年11月29日である。BIE総会で大阪万博開催が決まった深夜に書いたものだ。

そして先日、下記の原稿を送ったが、残念ながら「反応」がない。大阪では1勝1敗だ。昨日のレポートで紹介した連載「点検!都構想」と関わらせて私見を述べたものだ。せっかくの原稿なので、下記で紹介しておきたい。

本紙大阪市内版に掲載された「点検! 都構想」を注目して読んだ。制度説明から始まり、住民投票など今後のスケジュールまで、21回に及ぶ連載であった。切り抜いていた記事を読み返して、「都構想」の全体像と問題点が見えてきた。

昨年6月から毎回、法定協議会を傍聴してきたが、「都構想」の市民生活への影響など、理解できないことが多かった。こうしたテーマごとの解説と問題点の指摘は参考になる。「都構想」は大阪市を廃止して、4つの特別区を設置するものである。大阪府が広域行政の大半を担うが、大阪府が直ちに「都」になるわけでないことも指摘されていた。

傍聴していて感じたのは、記事で指摘されたような「都構想」の問題点の議論が少なかったことだ。長い歴史をもつ政令市・大阪市が廃止されたら、市民生活や大阪経済にどのような影響が及ぶのか、具体的な議論が乏しかった。

いちど大阪市を廃止したら、後戻りできないという。「大阪都」構想に対する市民の関心や理解も乏しく、このまま住民投票に突き進んでいいのだろうか。4月には「出前協議会」も開催されるが、大阪市民が「わがこと」として考えるように、丁寧に説明して判断材料を示してほしい。スケジュール優先の拙速な手続きは禁物である。

(2020年2月17日)

